

結婚という制度 その内と外

法学・社会学・哲学からのアプローチ

〈結婚〉ってどんな制度？
同性カップルの場合は？
結婚を“哲学”してみると？

多様な人びとが幸せに生きることのできる社会となるために、

結婚という制度をめぐるいま問われるべき課題とは？

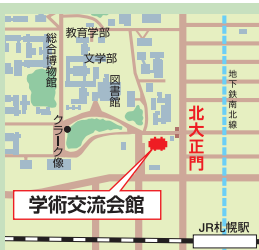
異なる三分野からのアプローチを交差させることにより、ともに考えてみましょう。

© iStock.com/mailtobee

日 時：2015 年 1 月 11 日(日) 13:30~16:45
(受付開始: 13:00)

会 場：北海道大学 学術交流会館 小講堂
(札幌市北区北8条西5丁目 北大正門そば)

参 加 費：無 料(事前申込不要)



北海道大学大学院文学研究科 応用倫理研究教育センター (CAEP)
HP: <http://ethics.let.hokudai.ac.jp/>
E-mail: gender@let.hokudai.ac.jp (担当: 西川)

結婚という制度 その内と外

法学・社会学・哲学からのアプローチ

大島梨沙 (新潟大学大学院実務法学研究科准教授・法学)

〈結婚〉と〈入籍〉の違いとは——フランスとの比較を通して

結婚は、今日、国家によって制度化されたものとなっている。しかし、婚姻制度のあり方は一様ではない。民事婚制度を採用するフランスと比較しながら、結婚において制度が果たす役割と、日本の婚姻制度が抱える課題を考える。

赤枝香奈子 (大谷大学文学部講師・社会学)

〈結婚〉の周辺にあるもの——女性同士の親密性から考える

結婚は社会制度の一つであり、必ずしも愛情や親密性に基づいているわけではない。しかし、結婚を「愛の証」として捉える見方は依然として強い。それでは、この制度から排除されてきた同性同士のカップルは、どのような形で自分たちの愛を証明しようとしたのか。

藤田尚志 (九州産業大学国際文化学部准教授・哲学)

結婚の形而上学とその脱構築——契約・所有・人格概念の再検討

結婚は制度であり経験であるとともに、幾つかの根本概念に支えられた“形而上学”でもある。今日、激変する社会情勢に即して、それをいかにバージョンアップすべきか。愛・性・家族がとりうるさまざまなかたちについて、西洋哲学の視点から考えてみたい。

司会 近藤智彦 (北海道大学大学院文学研究科准教授・倫理学)



北海道大学大学院文学研究科 応用倫理研究教育センター (CAEP)
HP: <http://ethics.let.hokudai.ac.jp/>
E-mail: gender@let.hokudai.ac.jp (担当: 西川)